

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																						
日本工学院八王子専門学校		昭和62年3月27日		前野 一夫		〒192-0983 東京都八王子市片倉町1404番地1他 (電話) 042-637-3111																						
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																						
学校法人片柳学園		昭和31年7月10日		千葉 茂		〒144-8650 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-3732-1111																						
分野	認定課程名	認定学科名			専門士	高度専門士																						
教育・社会福祉	教育・社会福祉専門課程	こども学科 幼稚園教諭・保育士コース			平成31年文部科学大臣 告示号外第15号	-																						
学科の目的	本学科は、保育士コースと幼稚園教諭・保育士コースがあり、どちらのコースも指定保育士養成施設として卒業と同時に保育士を取得することが可能です。幼稚園教諭・保育士コースは豊岡短期大学通信教育部のカリキュラムで学ぶことにより、卒業と同時に幼稚園教諭二種免許を取得することが可能です。両コースとも学科独自のキャリア実習により、個人の適性に応じたキャリアマッチングを行うとともに、実社会に必要なスキルを高めます。																											
認定年月日	平成28年2月19日																											
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																					
2年	昼間	1860時間	1140時間		750時間		単位時間																					
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																							
160人の内数	46人	1人	8人	18人	26人																							
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日			成績評価	■成績表：有 ■成績評価の基準・方法 授業日数の4分の3以上出席し試験を受験する。 S：90点以上 A：80～90点 B：70～79点 C：60～69点 D：59点以下は不合格 P：単位認定																							
長期休み	■学年始：4月1日～ ■夏季：7月21日～8月31日 ■冬季：12月23日～1月9日 ■学年末：3月18日～3月31日			卒業・進級条件	進級要件 ①各学年の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること 卒業要件 ①卒業年次の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること																							
学修支援等	■クラス担任制：有 ■個別相談・指導等の対応 当日中に担任から電話・Eメール等で連絡することを基本とし、状況に応じて、数日続いた時点で保護者に連絡するなどの指導をしている。また学修支援が必要な学生は、フォローアップの授業を活用するなど個別指導を徹底する。			課外活動	■課外活動の種類 卒業作品展示会、地域の保育園でのボランティア活動、体育祭、学園祭 ■サークル活動：有																							
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成30年度卒業生) 社会福祉法人多摩養育園 社会福祉法人敬愛学園 社会福祉法人長慶福祉会 学校法人宮村学園 日野・多摩平幼稚園 学校法人矢口学園 高ヶ坂幼稚園 ■就職指導内容 まずは学生の就職希望を調査し、学生本人の適正等を含め、総合的に判断して指導を徹底する。 ■卒業者数 25 人 ■就職希望者数 24 人 ■就職者数 24 人 ■就職率 100.0 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 97 % ■その他 ・進学者数： 0人 (平成30年度卒業者に関する令和1年5月1日時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業者に関する令和元年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>幼稚園教諭2種</td> <td>①</td> <td>25人</td> <td>24人</td> </tr> <tr> <td>保育士</td> <td>②</td> <td>25人</td> <td>25人</td> </tr> <tr> <td>幼児体育指導員</td> <td>①</td> <td>15人</td> <td>14人</td> </tr> <tr> <td>おもちゃインストラクター</td> <td>①</td> <td>6人</td> <td>6人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例) 認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	幼稚園教諭2種	①	25人	24人	保育士	②	25人	25人	幼児体育指導員	①	15人	14人	おもちゃインストラクター	①	6人	6人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																									
幼稚園教諭2種	①	25人	24人																									
保育士	②	25人	25人																									
幼児体育指導員	①	15人	14人																									
おもちゃインストラクター	①	6人	6人																									

中途退学の現状	<p>■中途退学者 0名 ■中退率 0.0% (休学者1名含まず)</p> <p>平成30年4月1日時点において、在学者25名(平成30年4月1日入学者を含む) 平成31年3月31日時点において、在学者25名(平成31年3月31日卒業者を含む)</p> <p>■中途退学の主な理由 学校生活への不適合・経済的問題</p> <p>■中退防止・中退者支援のための取組 担任と科長による面談。懇談会・電話等による保護者との情報共有。 担任による指導のほか経済面では学費・奨学金相談窓口を設け、学生生活においてカウンセリングルーム等を設け個々の学生に適した指導・助言・相談等を行っている。また、休学者にも復学(転科等)の指導・助言・相談も行っている。</p>
経済的支援制度	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度： 有・無</p> <p>・片柳学園入学学金免除制度・片柳学園給付型奨学金制度・再入学優遇制度・片柳学園奨学金制度・留学生特別給付制度</p> <p>・ミュージシャン特待生・スポーツ特待生・IT資格特待生</p> <p>■専門実践教育訓練給付： 給付対象・非給付対象</p> <p>※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載</p>
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価： 有・無</p> <p>特定非営利活動法人 私立専門学校等評価研究機構、平成25年度(平成26年3月31日) 受審 https://www.neec.ac.jp/education/accreditation/</p>
当該学科のホームページURL	https://www.neec.ac.jp/department/

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

- ①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除いたものをいいます。
- ②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。
- ③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

- ①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
- ②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

幼稚園や保育園、関連企業と連携体制を確保して、幼稚園教諭や保育士に求められる人材の養成を目的とした授業科目内容の見直しを図る。そのため、校内の実習設備や施設等を活用し、派遣された講師によって適宜、指導や評価を受ける体制をとることが可能な企業等を教育機関や保育機関より選定している。現在の保育現場で、どのような保育者を求めているのかを的確に分析し、学校教育においてこれら（漢字練習、昔遊びの勉強、パソコンの基本操作など）を取り入れた指導をしていくことを目標としている。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は、校長を委員長とし、副校長、学科責任者、教育・学生支援部員、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名以上を委員として構成する。

本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。審議の結果を踏まえ、校長、副校長、学科責任者、教育・学生支援部員で検討し次年度のカリキュラム編成へ反映する。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年4月1日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
榊原直哉	社会福祉法人福愛会 藤井保育園	平成31年4月1日～令和2年3月31日（1年）	①
宮崎豊彦	社会福祉法人共栄会 城山保育園	平成31年4月1日～令和2年3月31日（1年）	③
光宗政治	社会福祉法人 打越保育園	平成31年4月1日～令和2年3月31日（1年）	③
竹内 雅代子	麻生学園 南多摩幼稚園	平成31年4月1日～令和2年3月31日（1年）	③
中村 健	八王子市幼稚園協会会長 学校法人八王子中村学園	平成31年4月1日～令和2年3月31日（1年）	③
前野 一夫	日本工学院八王子専門学校 校長	平成31年4月1日～令和2年3月31日（1年）	
山野 大星	日本工学院八王子専門学校 副校長	平成31年4月1日～令和2年3月31日（1年）	
有山 敦士	日本工学院八王子専門学校 カレッジ長	平成31年4月1日～令和2年3月31日（1年）	
三樹 春幸	日本工学院八王子専門学校 科長	平成31年4月1日～令和2年3月31日（1年）	
荒井 哲子	日本工学院八王子専門学校 教育・学生支援部 課長	平成31年4月1日～令和2年3月31日（1年）	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (3月・9月)

(開催日時(実績))

第1回 平成30年9月10日 10:00～12:00

第2回 平成31年1月21日 13:00～15:00

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

現状の保育士の中でよく存在する問題として「手書き」の練習が指摘された。保育実習指導ⅠBで実施する保育実習中でも保護者との連絡等にも必須なため、「手書きの向上」を目指してほしいという意見から、実際の授業では「ペン字」練習を行う授業を実施する。現場で欠かせないものとしての手書きの練習を繰り返して行い、改善や上達できるよう指導にあたる。また、現状の保育士の問題点である「幼児を対象とした運動指導スキルの向上」を目指してほしいという意見から、実際の現場での幼児体育指導について実践的な授業を実施する。学生自身も運動をしっかりと実践できるスキルを身につけられるように指導にあたる。さらに、保育現場で求められている新たなスキルなどを身につけさせるため、事前・事後指導を徹底的に行う。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

幼稚園教諭、保育士としての実務に必要な基礎知識を身に付け、実習や実務で即戦力となるために、現場となる幼稚園や保育園、幼児体育関連企業からの助言や指導を直接得られることが可能な企業を選択する。企業等との打合せにより、企業等のニーズに沿った実習内容や評価方法を設定し、目標を明確にする。企業等からの派遣講師による実践的な実習・演習を実施後、企業等の派遣講師による評価に基づき、教員が成績評価・単位認定を行う。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

保育の全体的な構造を理解し、保育の内容はもちろん具体的な援助方法等について学ぶ。即戦力の育成を念頭におきながら、実際の現場で求められる保育士としての資質・能力に基づく指導・援助を含めた知識とスキルを教授していただく。「保育実習IB」では、保育の目標、子どもの発達、内容を関連づけた保育内容の展開と子どもの育ちについて理解を図る。また、「こどもと体育1」では、保育内容を理解させながら、体育の基本的な知識と特に幼児の運動能力向上を目的とした運動指導の実践方法を学ぶ。この他、八王子市私立保育園協会と連携したキャリア実習では、即戦力をもつ保育者養成に取り組んでいる。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
保育実習IB	保育所や幼稚園における「保育」の全体的な構造について理解し、乳幼児期の発達過程、園での生活や遊び、保育計画、具体的な援助等について保育の流れを理解することが大切である。保育所保育指針・幼稚園教育要領に基づく保育内容の基本的な理解を深めるとともに、現場で求められる理想の保育者像について学ぶことを目的とする。	社会福祉法人 誠美福祉会 誠美保育園
こどもと体育1	こどもの運動遊びは、訓練的にならずこどもたちが能動的に取り組み、多くの体験が出来るような環境を設定することが大切である。多くの運動遊びの指導法を習得し、年齢や環境に応じた指導が出来るとともに、こどもの発育発達に則した運動遊びの指導法の習得を目的とする。	日本幼児体育学会

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的にやっていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

(2) 研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

1) 研修名：キャリア実習の実施にあたって

平成30年9月10日(月) 10:00~12:00 研究棟Bサクセスルーム

連携企業等：八王子市私立保育園協会（榊原直哉・宮崎豊彦・光宗政治・島本先生）

内容：キャリア実習の実施報告及び今後の改善点などについて

2) 研修名：保育界の現状と一介の園長が勝手に求める保育者像

平成30年3月18日(土) 10:00~12:00 研究棟B403

連携企業等：社会福祉法人 誠美福祉会 誠美保育園 園長 折井誠司

内容：次年度のキャリア実習の変更点と学生指導にあたって

②指導力の修得・向上のための研修等

1) 研修名：これからの保育現場で求められる保育者の資質能力について

平成30年9月10日(月) 15:00-17:00

連携企業等：八王子市私立保育園協会（榊原直哉・宮崎豊彦・光宗政治・島本先生）

内容：キャリア実習などを踏まえ、これからの保育現場で求められる保育者の資質能力について

2) 研修名：アクティブラーニングについて

平成30年3月12日(火) 13:00-17:00

連携企業等：日本工学院八王子専門学校非常勤講師（高橋直樹）

内容：2018年改訂の学習指導要領に基づく学習指導方法について

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

1) 研修名：新しい幼稚園教育要領・保育所保育指針からみる保育者の資質能力
令和元年11月～12月（案）

連携企業等：八王子市私立保育園協会

内容：新しい幼稚園教育要領・保育所保育指針からみるこれから求められる保育者の資質能力について

2) 研修名：保育現場が求める人材と養成校との連携

令和元年3月（案）

連携企業等：東京児童協会江東区白河かもめ保育園（原麻美子）

内容：保育現場と養成校の教育連携の諸問題について

②指導力の修得・向上のための研修等

1) 研修名：保育実習の指導方法について

令和元年11月～12月（案）

連携企業等：八王子市私立保育園協会

内容：保育現場で求められるキャリア実習と保育実習の指導方法について

2) 研修名：幼稚園で求められる人材と養成校との連携について

令和元年12月～3月（案）

連携企業等：八王子市幼稚園協会会長（中村健）

内容：幼稚園の教育現場と養成校における教育連携について

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。

また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性や透明性を高める。

学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1)理念・目的・育成人材像
(2) 学校運営	(2)運営方針(3)事業計画(4)運営組織(5)人事・給与制度(6)意思決定システム(7)情報システム
(3) 教育活動	(8)目標の設定(9)教育方法・評価等(10)成績評価・単位認定等(11)資格・免許取得の指導体制(12)教員・教員組織
(4) 学修成果	(13)就職率(14)資格・免許の取得率(15)卒業生の社会的評価
(5) 学生支援	(16)就職等進路(17)中途退学への対応(18)学生相談(19)学生生活(20)保護者との連携(21)卒業生・社会人
(6) 教育環境	(22)施設・設備等(23)学外実習・インターンシップ等(24)防災・安全管理
(7) 学生の受入れ募集	(25)学生募集活動(26)入学選考(27)学納金
(8) 財務	(28)財務基盤(29)予算・収支計画(30)監査(31)財務情報の公開
(9) 法令等の遵守	(32)関連法令、設置基準等の遵守 (33)個人情報保護(34)学校評価(35)教育情報の公開
(10) 社会貢献・地域貢献	(36)社会貢献・地域貢献 (37) ボランティア活動
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

保護者との連携を強化するために保護者会を継続して実施した方が良いとの意見から、学内保護者会および学外会場を増やし、学生へのサポート体制の充実を図る。学生のコミュニケーション能力向上のため、八王子協定ボランティアへの積極的参加を促したり、学科・カレッジを越えた地域連携・企業連携課題などで協働作業を進めコミュニケーション能力向上を図っていく。

社会人の学び直し講座については、実施時期や内容を精査しながら実証研究事業などを参考に再検討していく。

今年度も引き続き教員の就労環境の改善をはかりながら、自発的な能力開発及び向上を目的とした「学校法人片柳学園職員自己啓発支援制度」を活用し、教員の研修体制を整えていく。また、女性管理職育成の取組として、女性活躍推進研修を実施した。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成31年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
森 健介	順天堂大学 非常勤講師 (元白梅学園高等学校副校長)	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日(1年)	学校関連
金子 英明	日本工学院八王子専門学校 校友会会長 (セトラルエンジニアリング株式会社 グループマネージャー)	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日(1年)	卒業生/I T企業等委員
細谷 幸男	八王子商工会議所 事務局長	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日(1年)	地域関連
三井 隆裕	株式会社NVC(ヌーベルバーグカンパニー) 代表取締役	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日(1年)	クリエイターズ 企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務局長	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日(1年)	ミュージック 企業等委員
才丸 大介	株式会社カオルデザイン 執行役員 企画戦略室 室長	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日(1年)	デザイン 企業等委員
鈴木 浩之	株式会社田中建設 取締役 建築部長	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日(1年)	テクノロジー 企業等委員
池田 つぐみ	NPO法人日本ストレッチング協会 理事	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日(1年)	スポーツ 企業等委員
石川 仁嗣	医療法人社団 健心会 みなみ野循環器病院 事務長	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日(1年)	医療 企業等委員
宮崎 豊彦	八王子市私立保育園協会 会長 城山保育園 園長	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日(1年)	医療・保育 団体等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()) 平成30年9月11日

URL : <https://www.neec.ac.jp/announcement/28523/>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(2) 各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3) 教職員	教員・教員組織
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5) 様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6) 学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7) 学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8) 学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9) 学校評価	学校評価、平成29年度の項目別の自己評価表
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL: <https://www.neec.ac.jp/announcement/28523/>

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程 こども学科 幼稚園教諭・保育士コース) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			情報リテラシーと処理技術A	コンピュータ（ハードウェア、ソフトウェア）の仕組み、インターネットの仕組み、情報セキュリティ対策の基礎について、技術的な理解を深めます。	1・前	15	1	○			○	○			
○			情報リテラシーと処理技術B	Windowsの基本操作、文字入力の方法から文書の編集機能まで、WORDの基礎的な使用方法を実習するとともに、表計算機能を中心にExcelの基礎的な使用方法についても実習します。	1・前	15	1	○			○	○			
		A	憲法	日本国憲法の全体像を理解し、日本国憲法の成立過程、基本原理とその相互関係、基本的な条文について学びます。	1・前	30	2	○			○	○			
		A	ビジネススキル	実習および就職活動を見据えつつ、実習・就職後も現場で困ることのないよう、一般常識としてのマナーやスキルを学び、実践レベルで身につけます。	1・後	30	2	○			○		○		
○			健康科学	生活環境が健康に及ぼす影響を学び、自分自身の健康づくり及び幼児から高齢者までの健康づくりの基本的な方法について学びます。	1・前	15	1	○			○		○		
○			スポーツ（実技）	スポーツの楽しさを味わいながら仲間と身体活動を行う中で、自己の体力健康の保持増進を図ります。	1・前	30	1			○	○		○		
○			HR 1	学生生活のサポートを行うため、学生一人一人の状況を確認し、履修カリキュラムの達成状況を確認します。また、実習に向けた、ごく基礎的な社会的スキルの習得を目指します。	1・前	30	2	○			○		○		
○			HR 2	実習に向け、社会人スキルの基本を養うとともに、保育実習に向けた基本スキルを確認します。	1・後	30	2	○			○		○		
○			英語コミュニケーション	日本語と英語の違いを理解し、英語独特のリズム、音の連結、弱体化を身につけ、アウトプットすることの重要性を体得します。ドラマソッドを活用し、クラス終盤でグループ別の劇発保育とは何かを広い視野から捉えて保育全般について学びます。具体的には保育の意義と目的、保育所保育指針における保育の基本について理解し、保育の内容と方法の基本について学びます。	1・前	30	2	○			○		○		
○			保育原理	保育とは何かを広い視野から捉えて保育全般について学びます。具体的には保育の意義と目的、保育所保育指針における保育の基本について理解し、保育の内容と方法の基本について学びます。	1・前	30	2	○			○		○		
○			教育原理	教育の意義や目的をはじめ、教育制度などの教育学の基礎知識について学習します。教育の現状及び教育をめぐる諸問題について取り上げて検討すると共に教育実践の取り組みについても学習します。	1・前	30	2	○			○		○		
○			こども家庭福祉	歴史の変遷から、実状、今求められているこども家庭支援の在り方・ニーズ、課題と今後の展望まで広く概観します。	1・前	30	2	○			○		○		
○			社会福祉論	社会福祉全般について広く概観します。児童福祉や障害児支援との関連も学びます。	1・前	30	2	○			○		○		
○			社会的養護Ⅰ	現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷を理解し、こどもの人権擁護を踏まえ、社会的養護の基本について理解します。	1・後	30	2	○			○		○		
○			保育・教育者論	教育者・保育者とは何か、望ましい教育者・保育者となるためにどのようなことを身につけておかなければならないか、職務内容とは何かについて学びます。	1・前	30	2	○			○		○		
○			発達心理学	保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解します。	1・後	30	2	○			○		○		
○			こどもの発達と家庭支援	生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について包括的に捉える視点を取得します。	1・後	30	2	○			○		○		
○			こどもの理解と援助A	幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的な理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達の理解の意義を理解します。	1・前	15	1	○			○		○		
○			こどもの理解と援助B	様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解します。また、主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解します。	1・前	15	1	○			○		○		

○		保育・教育課程論	教育課程とは何か、そしてどのような意義をもつかなど、教育課程に関する基礎的な理解を深めます。現在に至るまでの教育課程論の歴史について確認し、その構造を明らかにします。	1・後	30	2	○			○		○					
○		保育内容総論	「保育」の全体的な構造について理解し、乳幼児の発達過程、園での生活や遊び、保育計画、具体的な援助について保育の流れを理解します。	1・前	15	1	○			○		○					
○		こどもの指導法「人間関係」	子どもの成長のために必要とされる、「人間関係」の基本を学びます。子どもが他者と関わりながら成長するために必要な基本的な考え方・指導法・評価を学びます。	1・前	15	1	○			○				○			
○		こどもの指導法「言葉」	乳幼児期の言葉の発達過程や言語教材が持つ意義について学び、保育者として子どもの言葉を引き出す言葉掛けの在り方を身につけます。	1・前	15	1	○					○	○				
○		こどもの指導法「リズム表現」	保育内容を理解し、音楽的・身体的・言語的表現領域から総合的に表現力を引き出し、子どもの指導援助者としての指導法を身に付けます。	1・前	15	1	○					○	○				
○		こどもの指導法「造形表現」	幼児にとつての造形表現の大切さや、発達過程における表現、指導援助の方法などを学びます。	1・前	15	1	○			○			○				
○		こどもと造形	形や色などの造形の基本を学習します。用具、材料、技法に関する基礎知識や、幼児の造形指導に必要な造形遊びについて、実技を通して学習します。	1・前	15	1	○			○			○				
○		表現とこどもの運動	こどもの表現遊びや運動が年齢に応じて展開されていくことを理解し、表現遊び運動の実践例からイメージを膨らませ、安全に楽しく表現遊びが展開できる知識及び実践力を理論的に深めます。	1・前	15	1	○			○						○	
○		乳幼児保育Ⅰ	乳児保育現状と課題を理解し3歳未満児の発達と保育について学びます。映像や事例を活用し理解を深めていきます。	1・後	30	2	○			○			○				
○		障害児保育	保育における障害児支援のニーズは年々高まっています。また「障害」は多様化しています。そうした現状を踏まえ、障害児保育とは何か、何故必要なのか、保育士に何が期待されているのかを学びます。	1・後	30	2	○			○			○				
○		保育実習指導Ⅰ B	保育実習Ⅰの事前学習として、事前手続きから基本的な知識、社会人マナー、実習生の心構えについて学びます。特に子どもの人権、プライバシー、保護を理解します。	1・後	15	1	○			○			○				
	B	ピアノ表現1	ピアノ演習を中心に、音楽の基礎を学びます。保育現場で使われる曲をピアノレベル別を選択し、実用可能レベルに上げることが目標とします。	1・前	30	2	○			○						○	
	B	ピアノ表現2	ピアノ表現1と同等に、保育現場で必要な曲を中心に習得します。楽譜通りに弾くこと以外にコードで弾きこなすテクニックを身につけることを目的に、レベル別に曲を選択しながら弾き歌いを行います。	1・後	30	2	○			○						○	
	B	人間関係論	領域「人間関係」の考え方について理解を深め、人間関係の成立と展開に関する発達心理学的基盤について理解します。	1・前	15	1	○			○			○				
○		こどもと音楽表現1	歌唱、ピアノ奏法、弾き歌いの基本について学びます。ピアノ奏法はピアノ技術の習得レベルに応じてピアノ演習を行います。	1・前	15	1	○			○						○	
○		こどもと音楽表現2	こどもと音楽表現1と同様に、ピアノ奏法はピアノ技術の習得レベルに応じてピアノ演習を行います。	1・前	15	1	○			○			○				
○		音楽表現論	領域「表現」を理解し、子どもの音楽表現の姿やその発達を促す要因、子どもの音楽的感性や創造性を豊かにする様々な音楽表現遊びや環境構成など、専門的意識・技能・表現力を身に付けます。	1・後	15	1	○			○			○				
○		造形表現論	形や色などの造形の基本を学習します。用具、材料、技法に関する基礎知識や、幼児の造形指導に必要な、造形遊びについて、実技を通して学習します。	1・後	15	1	○			○			○				
	C	夏期校外実習Ⅰ	マリンスポーツ(サーフィン、ボディボード)、キャンプ、アウトドア、ダイビング実習から自由を選択し、各スポーツの基本的な技術を学びます。	1・前	30	1				○	○		○				
	C	冬季校外実習Ⅰ	スキー、スノーボード、ダイビング実習から自由を選択し、各スポーツの基本的な技術を学びます。	1・後	30	1				○			○	○			
	C	教育実習事前・事後指導	実習に参加するための諸準備の理解を学ぶ事、実習日誌、指導案の書き方など具体的な方法の基盤を身につけます。	1・前	15	1	○						○	○			
	C	教育方法論	教育方法に関する基礎知識を身に付けます。こどもを取り巻く教育環境と保育ニーズが多様化していることを踏まえ、こどもにふさわしい教育方法についての理解を深め、実践的な指導技術について学びます。	1・後	30	2	○						○	○			

○		保育実習ⅠB	保育士として実践的演習を行います。1年次講義や演習を通して学んだ保育原理、発達心理、障害児保育、保育内容や方法などの様々な知識・技術を、保育所の生活に参加し、子どもと直接ふれあいながら保育士の仕事内容を学びます。	1・後	90	2			○		○	○	○		
○		HR3	学生一人一人の履修カリキュラムの達成状況の確認及び実習前指導を行います。学習及び生活面で、見通しを持ち、社会人として自立して行動できるようなスキルを身につけます。	2・前	30	2	○				○	○			
○		HR4	学生一人一人の状況を確認するとともに、履修カリキュラムの確認を行います。卒業発表に向けて、準備できるもの、何を表現していくのかを考察を深め、表現力を身につけます。	2・前	30	2	○			○		○			
○		こども家庭支援論	子育て家庭が抱える困難・ニーズなどを理解し、保育者としての支援方法・技術を学びます。これまでの子育て家庭支援の在り方と今後の展開を学びます。	2・前	30	2	○			○		○			
○		こどもの保健	こどもの成長過程を安全に、より健康的に手助けするために、こどもの発育や身体的特徴を理解し、こどもとの接し方について総合的に学びます。	2・前	30	2	○			○				○	
○		こどもの食と栄養	こどもの発育発達に合わせた食生活とその意義、食育を行うための基礎知識と重要性を理解し、家庭や児童養護施設における食生活の現状と課題について理解を深めます。	2・前	30	2	○			○				○	
○		こどもの指導法「健康」	こころからだが著しく発達する乳幼児期の健康領域に関する基礎的な知識について学びます。	2・前	15	1	○			○					○
○		こどもの指導法「環境」	保育者として具体的な活動や事例を通して理解を深めるとともに、物・自然と関わる保育実習を通してこどもの生命への探求心を養っていくことの重要性についても学習します。	2・前	15	1	○					○	○		
○		こどもの指導法「音楽表現」	領域「表現」の目標を理解するとともに、音楽を通した様々な表現活動の在り方や実践の方法を具体的に理解します。	2・前	30	2	○			○			○		
○		こどもの指導法「言語表現」	子どもが出会う児童文化財の鑑賞・再体験を通して、受講者自身の想像力や感性を磨き、子どもに寄り添う保育者としての基盤を構築します。	2・前	15	1	○			○			○		
○		乳幼児保育Ⅱ	子どもと保育者との関係の重要性について学びながら、一人一人の発達に応じた援助の方法を学んでいきます。	2・前	15	1	○			○					○
○		こどもの健康と安全	乳幼児期の特徴と観察、身体計測技術、生理機能計測技術の学習や演習を行います。	2・前	15	1	○			○					○
○		社会的養護Ⅱ	社会的養護Ⅰから発展し、さらなる理解を深め、具体的な援助方法・知識・技術を学びます。施設養護と家庭養護のそれぞれの違いと意義を学びます。	2・前	15	1	○			○					○
○		子育て支援	保育士としての専門性を生かした保護者への相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援について、その特性と展開を具体的に理解します。また、実践事例等を通して具体的に理解します。	2・前	15	1	○					○	○		
○		保育実習ⅠA	実践的実習を行います。施設の生活に参加することで、保育の流れや保育士の仕事内容を学びます。保育への社会的・家庭的ニーズを理解します。	2・前	90	2			○	○		○			
○		保育実習指導ⅠA	実習へ向けての心構えをし、準備を整えます。実習後の振り返りにより、自己の課題を明確化します。	2・前	15	1	○			○			○		
○		保育・教職実践演習A	実践力が身に付くように模擬授業を取り入れ、自らの課題を把握できるような授業内容を展開し、実習・現場で役立つ教材作成・発表を行います。	2・前	15	1	○			○					○
○		保育・教職実践演習B	保育実習を終えた学生を対象に、キャリア実習で経験した職務に対する責任感、コミュニケーションの重要性、幼児の理解、保育内容の指導力などについて総括し、保育者として実践力について理解を深めます。	2・前	15	1	○			○					○
	B	特別支援教育	特別な教育的ニーズをもつ子どもが幼稚園・保育所の中でそれぞれの自主性・自発性を発揮し、生きる力の基礎を培うために、生活上および認知機能における困難を理解し、関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解します。	2・前	15	1	○			○					○
	B	ピアノ表現3	保育現場で欠かせない季節のうた、行事に関するうたなどを中心としたピアノ演習を行います。同じ曲でもコードを見ながらアレンジを変えて、どんなレベルでも弾き歌いができるように自分で工夫しながら弾くことが出来る応用力を身につけます。	2・前	30	2	○			○	○		○		
	B	幼児造形	保育実習や保育現場で求められる、より実践的な造形技法を学び、身に付けます。	2・前	15	1	○			○			○		
	B	環境論	乳幼児期の子どもの発達と環境の関係性を考えます。また、環境を通して行う保育の意味を学習し、保育者自身が保育環境のデザインを実践できるようにします。そのために様々な環境との出会いに気づき、理解します。	2・前	15	1	○			○					○

○		こどもと体育	こどもの運動遊びの必要性や発育発達段階を理解しながら学び、安全に楽しく運動遊びを実施するための指導方法及び援助方法について学びます。	2・前	15	1	○		○		○		○
○		保育実習Ⅱ	保育実習Ⅰで経験してきた保育内容に課題をもうけ、具体的に取り組むことを目的とします。指導計画の進め方・取り組み法を確認し、課題のレポートリーを増やします。	2・後	90	2			○	○		○	○
○		保育実習指導Ⅱ	保育士として実践的な実習を行っていきます。実習で経験してきた子どもの関わりも更にスキルアップできるように、復習を踏まえ苦手な場面には繰り返し取り組み、評価等のレベルアップにつなげます。	2・後	15	1	○		○			○	
	C	キャリア実習A	保育実習や幼稚園教育実習後に自己の特性や能力に応じたキャリアマッチングを行うため、保育所・施設または幼稚園において10日間のキャリア実習を行います。	2・前	90	2			○	○			○
	C	音楽総合演習	保育内容に沿って、こどもの音楽表現活動を援助し、こどもの成長過程における豊かな人格形成（情緒・表現・鑑賞等）を育成することをテーマに学習します。合わせて指導法を学びます。	2・後	15	1	○		○				○
	C	造形総合演習	作品展などに応用できる造形技法を習得し、指導法を習得します。	2・後	15	1	○		○				○
	C	スポーツ総合演習	保育所や施設などの現場で活躍できる、様々なスポーツについての基礎的な知識、実施方法や注意点などについて学びます。	2・後	15	1	○		○				○
	C	調理総合演習	保育所で実際に提供される幼児食を中心に調理を行っていき、食育について考えていきます。	2・後	15	1	○		○			○	
	C	インターンシップ	人間力向上を目指すことを目的に、希望者自身が選定したインターンシップを経験し、コミュニケーション能力、行動力、判断力、積極性を身につけます。	2・前	30	1			○	○			○
	C	夏期校外実習2	マリンスポーツ（サーフィン、ボディーボード）、キャンプ、アウトドア、ダイビング実習から自由に選択し、各スポーツの基本的な技術を学びます。	2・前	30	1			○	○			○
	C	冬季校外実習2	スキー、スノーボード、ダイビング実習から自由に選択し、各スポーツの基本的な技術を学びます。	2・後	30	1			○	○			○
	C	幼稚園実習指導	幼稚園実習の事前学習に関する指導を中心に、実習生として備えるべき基本的知識とマナー、学習指導案の作成などについて具体的に学びます。	2・前	15	1	○		○			○	
	C	卒業発表	2年間の集大成として、学んできた「実習内容」を、各分野に分かれて集中的に磨き上げ発表することで、保育者としての自覚と自信を身につけます。	2・後	30	2	○		○			○	
	C	こどもの理解と相談支援	幼児、児童、生徒を対象とした現場における相談支援に重点を置き、発達と成長の基礎理論、生活指導、しつけ、学習適応等について学びます。また、カウンセリングの基本的態度や技法について学び、様々な心理アセスメントの内容・活用について理解を深めます。	2・前	30	2	○		○				○
	C	教育実習A	2週間の幼稚園での保育の実際について、体験的学習の過程で、幼児理解や保育者役割、職務内容、保育の流れ（実態把握・計画・実践・反省の循環）、そして幼稚園の在り方について理解します。	2・前	90	2			○	○			○
	C	教育実習B	幼稚園教育実習Aの成果と反省を踏まえ、幼稚園の保育を実践的に体験し、幼稚園教諭として必要な資質・能力・技術を習得するとともに、目標とする幼稚園教師像を明確にします。	2・後	90	2			○	○			○
合計					79	科目	1890 単位時間(96 単位)						

卒業要件及び履修方法	授業期間等
卒業時に必修科目1335時間(76単位)取得および選択科目を525時間(27単位)以上取得し、合計1860時間(103単位)以上取得すること	1 学年の学期区分 2 期
保育実習ⅠB必修90時間、2単位は1年次もしくは2年次で履修すること	
選択種別Aより2単位以上、選択種別Bより8単位以上、選択種別Cより13単位以上履修すること	1 学期の授業期間 15 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。